

海外ネットワークを最大活用

JA全農グループの畜産物輸出事業

JA全農グループは、海外に多数の現地法人や事務所を有し、このネットワークを活用して国産農畜産物の輸出拡大と飼料原料の安定的確保に取り組んでいます。本号より海外拠点の紹介、現地レポートや、海外の畜産技術に関する最新情報をお届けします。

農林水産物・食品の輸出額は年々増加

日本の人口は、2019年11月の時点で65歳以上が約28%を占め（総務省統計局「人口推計」）、総人口は減少し続けています。人口減少とともに国内の食糧需要の減少が見込まれる中、農業生産の維持のためには、輸出による需要開拓が重要となります。

19年の農林水産物・食品の輸出額は9千121億円となり、7年連続で過去最高を更新（図1）。畜産物の19年輸出実績は533.9億円で、12年以降連続して増加しています（図2）。中でも、牛肉が最大の297億円となり、全体の約56%を占めています。国は今後更に輸出を促進するため、20年4月に「農林水産物・食品輸出本部」を設置。国が発表した30年の農林水産物・食品の輸出目標額は5兆円で、畜産物の内訳では牛肉が3千600億円となっており、19年実績の約12倍にあたります（表1）。

一方で、畜産物における日本と他国・地域の輸出入の状況は相手国によってさまざまです（表2）。輸出拡大のためには国による諸外国等に対する輸出規制への対応、原発事故の国外における風評被害の払拭等、輸出回復に向けた働きかけも重要です。

JAグループの農畜産物輸出と海外ネットワーク

JAグループの農畜産物輸出実績は18年度合計179億円で、牛肉が最も大きな割合を占め、77億円となりました（図3）。牛肉の輸出実績は、16年度と比較して2倍以上に増加しており、今後も、より一層の拡大を目指しています。

輸出事業に大きな役割を果たしているのが、JA全農グループの海外拠点です。現地での販売力を強化するため欧州、シンガポール、米国、香港、台湾、北京に輸出拠点を設けています（図4）。輸出先としては、他にもカナダ、メキシコをはじめ、東南アジア、オセアニア等で現地提携先とともに輸出拡大に取り組んでいます。また、JA全農ミートフーズ（株）は香港に和牛焼肉「純」を2店舗出店。現地での人気は高く、1号店は現地の大手インターネットグルメサイト「Open Rice」で13年に新規開店レストラン部門で最優秀賞を受賞しました。今後もグループ一丸となって、海外における畜産物の販路拡大を目指していきます。

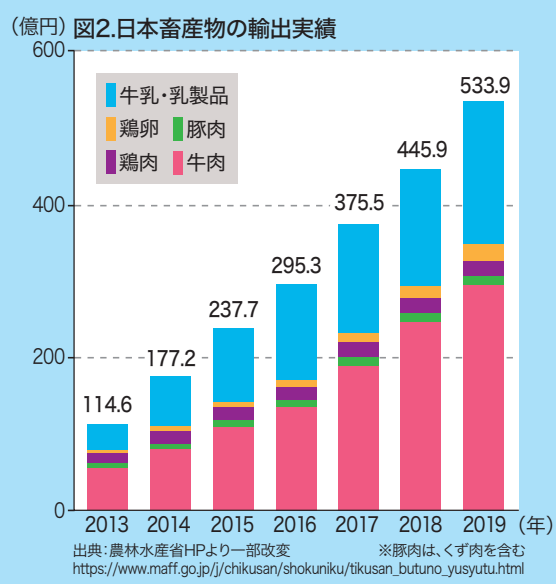
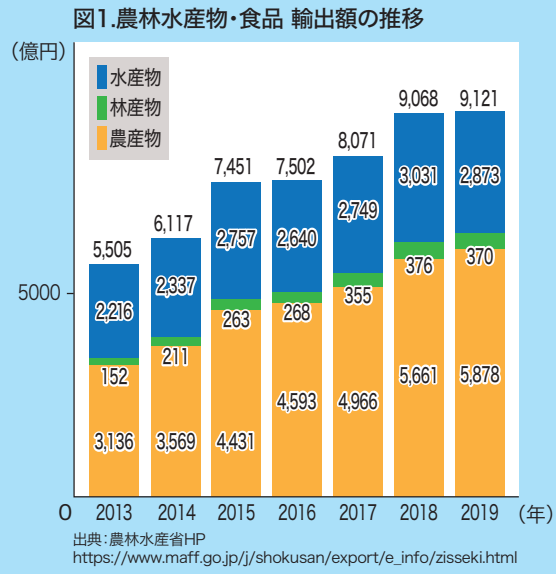


表1. 2030年輸出目標額

牛肉	3,600億円	鶏卵	196億円
豚肉	60億円	牛乳・乳製品	720億円
鶏肉	100億円		

図4. JA全農グループ食肉事業の海外ネットワーク

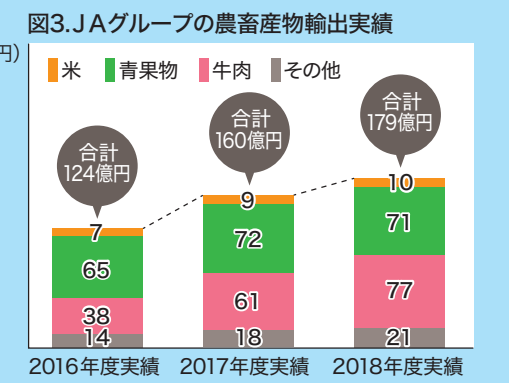
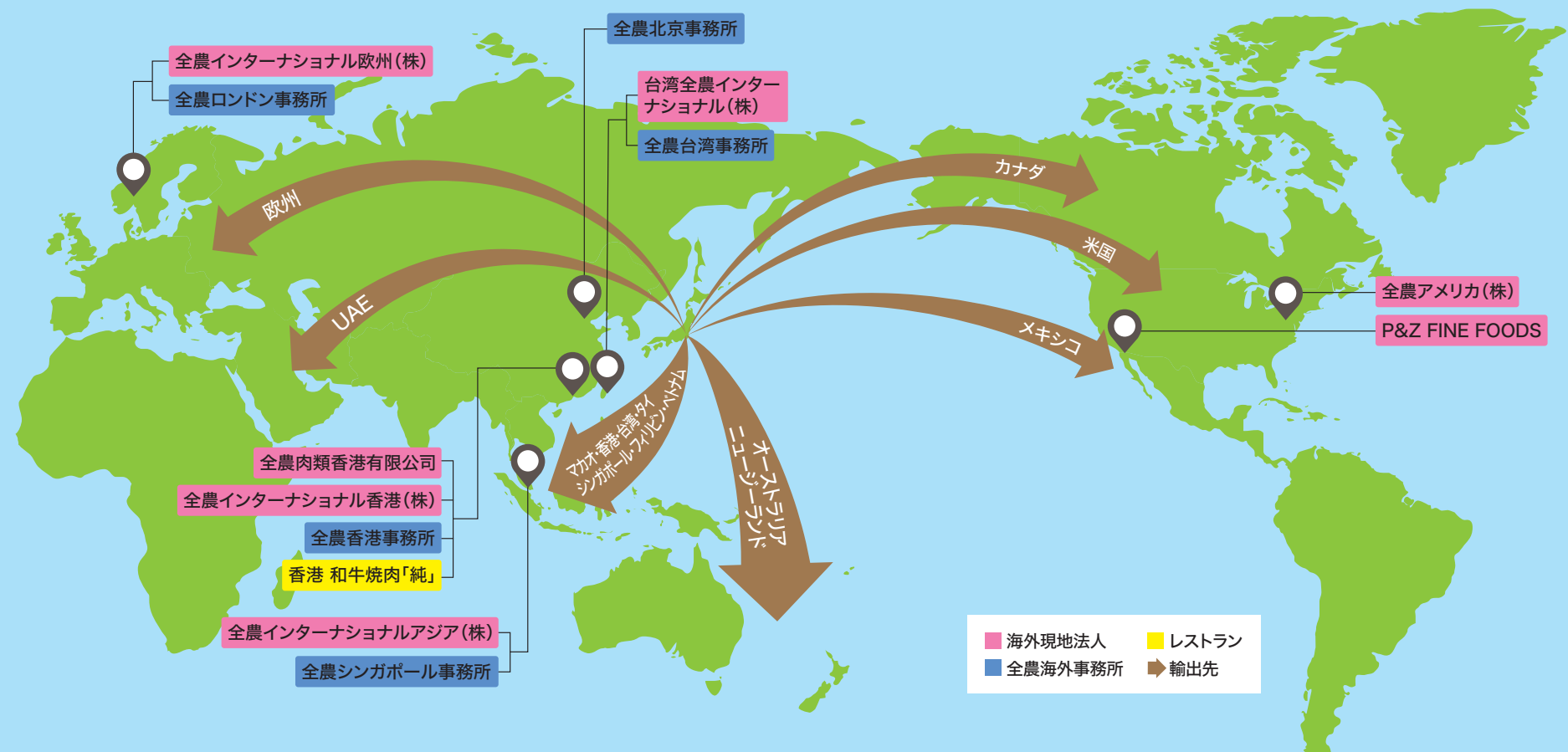


表2. 日本と他国・地域の輸出入の状況 (2020年6月1日現在)

	米 国		E U		中 国		台 湾		香 港		シンガポール		豪 州	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
牛肉	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	○	×	○	○
豚肉	×	○	△	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
鶏肉	×	○	△	○	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○
鶏卵	○	○	△	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	○
合計金額(億円)	31	2,902	15	1,876	—	0	37	—	91	—	19	—	3	1,834

※輸出入金額は2019年の財務省貿易統計による ※豚肉の輸出入金額は、くず肉を除く
※○可(諸条件及び地域制限等あり)、△可(現在認定施設なし)、×不可